



2020年10月28日

各 位

会 社 名 理研ビタミン株式会社
代表者名 代表取締役社長 山木 一彦
(コード番号4526 東証第一部)
問合せ先 経営企画部長
兼 広報・IR室長 池田 航
(TEL 03-5362-1315)

(再訂正) 「2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の
一部訂正について

当社は、2020年1月30日に開示いたしました「2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」につきまして、2020年9月30日付で一部内容の訂正を行っておりますが、一部再訂正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 訂正の内容と理由

訂正の内容と理由につきましては、別途、本日(2020年10月28日)付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出および過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」にて開示しておりますのでご参照ください。

2. 訂正箇所

訂正箇所は_____線を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから訂正事項については、訂正後のみ全文を記載しております。

以 上

(訂正後)



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年1月30日

上場会社名 理研ビタミン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4526 URL <https://www.rikenvitamin.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山木 一彦
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長兼広報・IR室長 (氏名) 池田 航 TEL 03-5275-5111
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	63,102	△6.1	5,249	28.2	5,218	29.5	△5,551	—
2019年3月期第3四半期	67,237	1.1	4,096	△13.7	4,028	△4.4	2,759	1.7

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 △5,019百万円 (—%) 2019年3月期第3四半期 2,680百万円 (△49.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	<u>△338.65</u>	—
2019年3月期第3四半期	<u>168.35</u>	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	<u>106,650</u>	<u>52,851</u>	<u>49.1</u>
2019年3月期	<u>109,706</u>	<u>59,229</u>	<u>53.5</u>

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 52,359百万円 2019年3月期 58,747百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	38.00	—	43.00	81.00
2020年3月期	—	40.50	—		
2020年3月期(予想)				40.50	81.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	97,000	9.0	6,800	<u>48.5</u>	6,400	<u>45.8</u>	4,600	<u>75.3</u>	280.59

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記、(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	20,352,550株	2019年3月期	20,352,550株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	3,956,436株	2019年3月期	3,961,608株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	16,393,060株	2019年3月期3Q	16,391,141株

(注) 期末自己株式数には、「役員報酬BIP信託」が保有する当社株式（2020年3月期3Q67,207株、2019年3月期67,800株）及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式（2020年3月期3Q35,170株、2019年3月期40,100株）が含まれております。

また、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2020年3月期3Q105,662株、2019年3月期3Q107,900株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	<u>10</u>

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費については雇用・所得環境の改善による回復が見られているものの、消費増税の影響で足許では一時的に下振れしております。企業収益でも輸出関連産業などが力強さを欠き、足踏み傾向が見られます。一方、海外経済は、米国では個人消費の下支えにより底堅く推移していますが、米中貿易摩擦の長期化に加え、中国の景気減速、中東情勢の緊迫化など各国の政治政策動向および地政学的リスクの高まり等により、先行きの不透明感は払拭できない状況が続いております。

また、当社を取り巻く食品業界においては、国内市場では、消費者の節約志向が依然として続く一方で、健康志向や簡便化志向が強まっており、ライフスタイルの変化やニーズの多様化への対応に加え、最近ではフードロス（食品ロス）も社会問題化しており取組みが求められています。他方、成長が見込める海外市場では、成長エリアに対する積極的な取組みが求められる状況にあります。

このような事業環境のもと、当社グループでは、2018年4月より2021年3月までの3年間を対象として、
 ◇成熟市場にある国内事業では収益基盤のさらなる強化
 ◇拡大市場にある海外事業では構造基盤の強化による成長エンジンの加速化
 ◇独自の技術力・開発力に磨きをかけ、新領域に挑戦
 ◇CSR経営の推進
 を基本に据えた「中期経営計画」を策定し、持続的成長を図るべくグループを挙げて取組みを推進しております。

当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、『国内化成品その他事業』の飼料用油脂の実績が伸長しましたが、『国内食品事業』が前年同期を下回りました。また、『海外事業』では『青島福生食品有限公司（中国）』において取引の実在性を確認するには至らなかったエビの加工販売の取引および関係する取引の売上94億55百万円を取り消したことにより、前年同期を下回りました。その結果、売上高は631億2百万円（前年同期比41億34百万円、6.1%減）となりました。

利益面では、『国内食品事業』においては、家庭用のドレッシング、業務用のドレッシングおよびエキス調味料関係の売上高が減少しました。加えて原料である海藻価格の上昇および家庭用ドレッシングのリニューアルに伴う広告宣伝費の増加等により前年同期を下回りました。また、『国内化成品その他事業』も化成品用改良剤の売上減少を受け、前年同期を下回りました。一方、『海外事業』では青島福生食品有限公司（総資産額92億82百万円）においてたな卸資産評価損を計上したものの、改良剤事業において高付加価値品の拡販および効率的な生産オペレーションの推進等により前年同期の営業損失から黒字に回復しました。この結果、営業利益は52億49百万円（前年同期比11億53百万円、28.2%増）、経常利益は52億18百万円（前年同期比11億89百万円、29.5%増）となりました。また、青島福生食品において取引の実在性を確認するには至らなかったエビの加工販売の取引および関係する取引の売上原価相当分92億56百万円を特別損失として計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は55億51百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益27億59百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

〔国内食品事業〕

『家庭用食品』では、乾燥わかめ「ふえるわかめちゃん®」は、堅調な推移を示し前年同期を上回る売上を確保しました。一方、今春に「リケンノンオイルドレッシング青じそ」の発売30周年を機にリケンノンオイルシリーズを一新しましたが、売上は前年同期を下回りました。この結果、『家庭用食品』の売上は、前年同期を下回りました。

『業務用食品』では、冷凍海藻が着実に伸長しましたが、ドレッシングおよびエキス調味料関係の売上減をカバーするには至らず、売上は前年同期を下回りました。

『加工食品用原料等』では、販売および技術・開発部門の連携により顧客ニーズに的確に対応した結果、堅調な推移を示した食品用改良剤に加え、医薬用マイクロカプセルの実績回復もあり、前年同期を上回る売上を確保しました。また、2019年10月に、食品用改良剤の新研究開発施設「アプリケーション&イノベーションセンター」を開設しました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から12億60百万円（2.8%）減少した440億81百万円となり、営業利益は42億49百万円（前年同期比6億42百万円減）となりました。

〔国内化成品その他事業〕

化学工業用分野（プラスチック・農業用フィルム・食品用包材・ゴム製品・化粧品など）において、機能性付加および加工性向上に効果的な『化成品（改良剤）』では、顧客ニーズを捉えたソリューションビジネスを展開した結果、化粧品向けが前年同期を上回る実績を確保しましたが、関係先業界の業況を受けた一部の分野で伸びを欠き、部門全体の売上は前年同期を下回りました。

また、『その他』の事業では、飼料用油脂の売上が着実な伸長を示し、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から18百万円（0.4%）増加した51億23百万円となり、営業利益は5億39百万円（前年同期比30百万円減）となりました。

〔海外事業〕

『改良剤』分野においては、情報発信基地である「アプリケーションセンター」と世界各地に設けた販売会社との連携による既存市場の深耕および新市場の開拓ならびに高付加価値品の拡販等の施策を推進した結果、売上および営業利益ともに前年同期を上回る実績を確保しました。

また、水産加工品が高いウエイトを占める『青島福生食品』においては、売上は前年同期の実績を下回り、営業損益は売上の減少に加えて「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（追加情報）（たな卸資産の評価の修正について）」に記載のたな卸資産評価損を計上した結果、赤字となりました。

なお、青島福生食品において取引の実在性を確認するには至らなかったエビの加工販売の取引および関係する取引の売上94億55百万円を取り消し、当該売上に対する売上原価相当分92億56百万円を特別損失として計上しております。

この結果、当セグメントの売上高は、前年同期から28億24百万円（15.8%）減少した150億95百万円となり、営業利益は7億41百万円（前年同期は営業損失10億10百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,066億50百万円となり、前連結会計年度末に比べ30億55百万円減少しました。主な減少は、現金及び預金29億26百万円であります。

負債は537億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億22百万円増加しました。主な増加は、仮受金77億66百万円であり、主な減少は、短期借入金16億73百万円、流動負債における引当金8億24百万円、その他流動負債5億63百万円、支払手形及び買掛金4億47百万円であります。

純資産は528億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ63億77百万円減少しました。主な要因として、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失の計上で55億51百万円、剰余金の配当で13億77百万円減少しました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の通期連結業績予想につきましては、2019年10月31日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表しました通期の業績予想に変更はありません。今後の事業環境の変化を見極めた上で、見直しの必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,587	13,661
受取手形及び売掛金	22,368	22,263
電子記録債権	706	745
商品及び製品	<u>6,887</u>	<u>7,554</u>
仕掛品	3,248	3,663
原材料及び貯蔵品	<u>6,620</u>	<u>5,011</u>
その他	1,530	1,849
貸倒引当金	<u>△616</u>	<u>△387</u>
流動資産合計	<u>57,332</u>	<u>54,363</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,264	13,520
機械装置及び運搬具（純額）	11,139	10,269
その他（純額）	4,463	3,966
有形固定資産合計	<u>27,867</u>	<u>27,756</u>
無形固定資産	656	629
投資その他の資産		
投資有価証券	20,818	20,768
退職給付に係る資産	1,492	1,674
その他	2,405	2,309
貸倒引当金	<u>△867</u>	<u>△852</u>
投資その他の資産合計	<u>23,849</u>	<u>23,900</u>
固定資産合計	<u>52,373</u>	<u>52,286</u>
資産合計	<u>109,706</u>	<u>106,650</u>

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,023	8,575
電子記録債務	757	685
短期借入金	9,753	8,079
未払法人税等	891	564
仮受金	726	8,492
引当金	1,156	332
その他	7,246	6,682
流動負債合計	<u>29,554</u>	<u>33,411</u>
固定負債		
長期借入金	15,243	14,855
引当金	<u>37</u>	<u>53</u>
退職給付に係る負債	212	206
その他	5,430	5,271
固定負債合計	<u>20,922</u>	<u>20,387</u>
負債合計	<u>50,476</u>	<u>53,799</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,537	2,537
資本剰余金	3,079	3,079
利益剰余金	<u>58,571</u>	<u>51,641</u>
自己株式	<u>△13,831</u>	<u>△13,809</u>
株主資本合計	<u>50,356</u>	<u>43,449</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,931	8,161
繰延ヘッジ損益	3	4
為替換算調整勘定	<u>654</u>	<u>905</u>
退職給付に係る調整累計額	<u>△198</u>	<u>△162</u>
その他の包括利益累計額合計	<u>8,390</u>	<u>8,909</u>
非支配株主持分	482	492
純資産合計	<u>59,229</u>	<u>52,851</u>
負債純資産合計	<u>109,706</u>	<u>106,650</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	67,237	63,102
売上原価	47,261	42,031
売上総利益	19,975	21,070
販売費及び一般管理費	15,879	15,821
営業利益	4,096	5,249
営業外収益		
受取利息	46	41
受取配当金	339	378
デリバティブ評価益	307	335
その他	163	142
営業外収益合計	857	898
営業外費用		
支払利息	564	562
為替差損	158	281
その他	202	86
営業外費用合計	924	929
経常利益	4,028	5,218
特別利益		
固定資産売却益	487	1
投資有価証券売却益	1	199
補助金収入	22	20
特別利益合計	512	221
特別損失		
固定資産除却損	66	27
投資有価証券評価損	—	53
水産加工品取引関連損失	—	9,256
その他	1	0
特別損失合計	67	9,338
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	4,472	△3,898
法人税等	1,704	1,628
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,767	△5,527
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	23
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,759	△5,551

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	<u>2,767</u>	<u>△5,527</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	345	230
繰延ヘッジ損益	△6	1
為替換算調整勘定	<u>△259</u>	<u>240</u>
退職給付に係る調整額	△167	35
その他の包括利益合計	<u>△87</u>	<u>507</u>
四半期包括利益	<u>2,680</u>	<u>△5,019</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>2,687</u>	<u>△5,032</u>
非支配株主に係る四半期包括利益	△6	13

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(追加情報)

(実在性等を確認できない取引に関する事項)

当社連結子会社である青島福生食品有限公司（以下「青島福生食品」という。）における特定の顧客とのエビ加工販売の取引について、取引開始の経緯や取引高が急増した背景などの取引を行った理由や、特定の仕入先を含む取引全体の商流など、取引の全容が解明できず、営業取引としての実在性を確認できなかったため、当社は、外部専門家を含む特別調査委員会を設置し、事実関係の調査を行いました。

その結果、当該取引の仕入・加工販売取引の実在性を否定すべき明確な根拠は検出されなかったものの、取引を行った理由や取引全体の商流を明らかにすることができず、また、青島福生食品において当該取引に関連する記録および資料の適切な管理が徹底されていなかったことや十分な調査協力が得られなかったこともあり、特定の仕入先からの仕入取引、加工、特定の顧客への販売取引についての取引の全容の解明、当該取引の実在性を確認するには至りませんでした。

この調査結果を踏まえ、当第3四半期連結会計期間および当第3四半期連結累計期間において、当社としては取引の全容および実在性が確認できなかった特定の顧客向けの売上高9,455百万円を取り消し、既入金額を仮受金8,492百万円として計上するとともに、取り消した売上に対応する売上原価9,256百万円（特定の仕入先からの仕入高を含む）は営業損益以外の項目と判断して特別損失に計上し、四半期連結財務諸表を作成しております。

また、前連結会計年度においても取引の全容および実在性が確認できなかった特定の顧客向けの売上高863百万円が生じており、当該売上高を取り消したことにより、既入金額を仮受金726百万円として計上し、連結財務諸表を作成しております。

なお、取引の全容および実在性が確認できない以下のものが四半期連結財務諸表に含まれております。

四半期連結貸借対照表

	前連結会計年度	当第3四半期連結会計期間
仮受金	726百万円	8,492百万円
支払手形及び買掛金	—	392百万円

四半期連結損益計算書

	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
水産加工品取引関連損失	—	9,256百万円

(たな卸資産の評価の修正について)

当社連結子会社である青島福生食品有限公司(以下「青島福生食品」という。)が、2020年8月に鱈などを中心とした水産加工品を廉価で処分販売した事実が判明したことに伴い、青島福生食品のたな卸資産の評価が適切に行われていなかった疑いが生じたため、当社は、外部専門家を含む特別調査委員会を設置し事実関係の調査を行っております。

第84期第3四半期報告書の訂正報告書提出日現在において特別調査委員会の調査は継続中であるものの、2020年10月上旬に実地棚卸を行うとともに、2020年8月に廉価で販売した水産加工品に関する書類および青島福生食品からの事実関係の説明を確認した結果などから、当社としては過年度において連結貸借対照表上のたな卸資産の評価が適切に行われていなかったと判断し、たな卸資産の評価を修正しております。

なお、当第3四半期連結会計期間および前連結会計年度のたな卸資産への影響額ならびに当第3四半期連結累計期間および前第3四半期連結累計期間の売上原価に含まれるたな卸資産評価損の修正額は以下のとおりです。

四半期連結貸借対照表

	<u>前連結会計年度</u>	<u>当第3四半期連結会計期間</u>
商品及び製品	<u>△125百万円</u>	<u>△177百万円</u>
原材料及び貯蔵品	<u>△1,448百万円</u>	<u>△1,520百万円</u>

四半期連結損益計算書

	<u>前第3四半期連結累計期間</u>	<u>当第3四半期連結累計期間</u>
売上原価	<u>458百万円</u>	<u>232百万円</u>

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	45,063	5,105	17,068	67,237	—	67,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高	278	—	851	1,130	△1,130	—
計	45,342	5,105	17,920	68,367	△1,130	67,237
セグメント利益又は損失 (△)	4,892	569	<u>△1,010</u>	<u>4,451</u>	△354	<u>4,096</u>

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△266百万円、たな卸資産の調整額△88百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内 食品事業	国内化成品 その他事業	海外事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	43,730	5,123	14,247	63,102	—	63,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	350	—	847	1,198	△1,198	—
計	44,081	5,123	15,095	64,300	△1,198	63,102
セグメント利益	4,249	539	<u>741</u>	<u>5,530</u>	△280	<u>5,249</u>

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△272百万円、たな卸資産の調整額△8百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。